

子宮頸がん予防接種説明書

この説明書をよく読み予防接種による効果や副反応などをよく理解し、接種に同意したうえで接種を受けてください。

1 子宮頸がんについて

子宮頸がんとは、子宮の入り口（頸部）にできるがんで、年間約 8,500 人が発症し、約 2,500 人が死亡しているとされています。子宮頸がんは 20 歳代から 30 歳代の女性に発症するがんの第 1 位を占めており、発症率は過去 20 年で 2 倍以上に増えています。

初期段階では無症状で、がんが進行すると、異常なおりもの、不正出血や性交時出血、下腹部痛などの症状が現れてきます。治療方法や予後などはがんの進行状態や全身状態によって異なります。

【子宮頸がんの原因】

子宮頸がんの原因は主にヒトパピローマウイルス（以下「HPV」）による感染です。

HPVには約 100 種類の型が確認されており、その中の約 15 種類が発がん性 HPV と言われ、その中でも、特に「16 型」と「18 型」によるものが発症原因全体の約 7 割を占めています。

HPV の感染経路は主に性交渉です。HPV は、特別なウイルスではなく、多くの女性が一生のうち一度は感染するごくありふれたウイルスです。多くの場合、感染は一時的で、ウイルスは自然に排除されますが、感染した状態が長い間続くと前がん病変（がんになる前の異常な細胞）を経て子宮頸がんを発症することがあります。

2 子宮頸がん予防ワクチンについて

HPV は、子宮頸がん等の原因となる「16 型」、「18 型」等の「高リスク型」と尖圭コンジローマ等の原因となる「6 型」、「11 型」等の「低リスク型」に分類されています。サーバリックス、ガーダシルのどちらも子宮頸がん等の原因となる「16 型」、「18 型」等の「高リスク型」に起因する子宮頸がん等の予防効果が認められています。どちらか一方のワクチンしか接種を実施していない医療機関がありますので、接種を受ける場合は、医療機関と相談して接種できるほうを接種してください。

3 ワクチンの接種回数について

ワクチンは 2 種類ありますが、接種間隔が異なりますので注意してください。

(1) 2 価ワクチン(サーバリックス)を接種する場合(3 回接種)

1 か月以上の間隔を空けて 2 回行った後、1 回目の接種から 5 か月以上、かつ 2 回目の接種から 2 か月半以上の間隔を空けて 1 回行う。

標準的には、* 1 か月以上の間隔を空けて 2 回行った後、1 回目の接種から 6 か月の間隔を空けて 1 回

(2) 4 価ワクチン(ガーダシル)を接種する場合(3 回接種)

1 か月以上の間隔を空けて 2 回行った後、3 か月以上の間隔を空けて 1 回

標準的には、2 か月の間隔を空けて 2 回行った後、1 回目の接種から 6 か月の間隔を空けて 1 回

(3) サーバリックスとガーダシルの互換性について

2 つのワクチンの互換性に関する安全性、免疫原性、有効性のデータはないことから、各ワクチンについて、初めに接種したワクチンを 3 回うけること。

4 ワクチン接種を受けるには

指定された医療機関に予約をして接種を受けてください。

5 ワクチン接種を受けるときの同伴者は

13 歳未満の方は、保護者の同伴が必要です。

13歳以上は、保護者が同伴する必要はありませんが同意書が必要です。また、接種後に失神があらわれることがありますので、できるだけ保護者が同伴するようにしてください。

6 ワクチン接種後の副反応について

以下の副反応が報告されていますが、通常、数日中に改善します。

- 頻度 10%以上 かゆみ、注射部位の痛み・赤み・腫れ、胃腸症状（吐き気、嘔吐、下痢、腹痛など）筋肉の痛み、関節の痛み、頭痛、疲労
- 頻度 1～10%未満 発疹、じんましん、注射部分のしこり、めまい、発熱（38℃以上）、上気道感染
- 頻度 0.1～1%未満 注射部分のピリピリ感/ムズムズ感
- 頻度不明 失神・血管迷走神経反応（息苦しい、息切れ、動悸、気を失うなど）

※この子宮頸がん予防ワクチンにはアジュバントと呼ばれる免疫増強剤が2種類添加されています。そのうち1種類は日本で初めて添加されたものです。

7 ワクチン接種を受けられない方

- (1) 明らかに発熱している方（接種時体温37.5℃以上）。
- (2) 重い急性疾患にかかっている方。
- (3) ワクチンの成分（詳しくは医師にお尋ねください）によって過敏症（通常接種後30分以内に出現する呼吸困難や全身性のじんましんなどを伴う重いアレルギー反応を含む）をおこしたことがある方。
- (4) 他の予防接種を受けた場合、生ワクチンを接種して27日以内の方、または不活化ワクチンを接種して6日以内の方。
- (5) その他、かかりつけの医師に予防接種を受けないほうがよいと言われた方。

8 ワクチン接種前に医師によく相談しなければならない方

- (1) 血小板が少ない方や出血しやすい方。
- (2) 心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患、発育障害などの基礎疾患のある方。
- (3) 過去に予防接種で接種後2日以内に発熱のみられた方。
- (4) 過去にけいれん（ひきつけ）をおこしたことがある方。
- (5) 過去に免疫不全の異常を診断されたことがある方、もしくは近親者に先天性免疫不全症の方がいる方。
- (6) 妊娠あるいは妊娠している可能性のある方（3回の接種期間中を含む）。

9 ワクチン接種後の注意

- (1) 接種後、重いアレルギー症状（血管浮腫・じんましん・呼吸困難）が起こることがあるので、すぐに帰宅せず30分間は安静にしてください。また、接種後1週間は副反応の発生に注意し、強い痛みがある場合や痛みが長く続いている場合など、気になる症状があるときは、医師にご相談ください。
- (2) 接種後は接種部位を清潔に保ち、こすらないようにしましょう。
- (3) 接種当日は安静を保って過度な運動を控えましょう。接種当日の入浴は差し支えありません。
- (4) 接種の途中で妊娠した場合、妊娠の可能性がある場合は医師とよく相談してください。

この子宮頸がんワクチンでは完全に発がん性HPVの感染を予防することはできません。また、発がん性HPVに感染している人に対して、ウイルスを排除したり、発症している子宮頸がんや前がん病変の進行を遅らせたり、治療することはできません。

そのため、20歳を過ぎたら、定期的に子宮頸がん検診を受診することが必要です。子宮頸がんはワクチンの接種と定期的な検診の受診により予防できる唯一のがんとされています。

問い合わせ先

田川市保健センター 田川市大字伊田2550-1 TEL44-8270

http://www.joho.tagawa.fukuoka.jp/kenkou/page_567.html?mst=9&pg=1&type=life